



各 位

平成 19 年 3 月 1 日

会 社 名 株式会社 神戸製鋼所  
 ( URL <http://www.kobelco.co.jp> )  
 代表者名 代表取締役社長 犬伏 泰夫  
 (コード番号 5406 東証、大証、名証)  
 問合せ先 執行役員秘書広報部長 泉 博二  
 ( TEL 03-5739-6010 )

## 平成 19 年 3 月期(2007 年 3 月期) 業績見通し及び期末配当について

当社の第 154 期 ( 2007 年 3 月期 ) の業績につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

### ( 1 ) 連結業績見通し

当期のわが国経済は、企業収益が高水準で推移する中、民間設備投資が引続き増加しているほか、雇用者所得も緩やかな増加を続けており、その下で個人消費も底堅く推移するなど、景気は緩やかに拡大を続けております。海外においても、中国をはじめとするアジア経済を中心に拡大を継続しております。

このような経済環境の下、鉄鋼関連事業では、自動車・造船など国内製造業向けの需要が好調を維持しており、海外も日系トランスプラント向けが堅調に推移しております。また、国内在庫は順調に削減が進んでおります。一方、中国の鉄鋼生産の拡大や米国における在庫の増大など、今後の鋼材需給については懸念材料もあり、その動向を注視していく必要があります。以上のとおり、鋼材市場の動向は前回見通し時から大きく変化しておらず、鉄鋼関連事業の業績は前回見通し並みとなる見込みであります。また、機械関連事業では、中東や中国を中心とする世界的な石油化学・エネルギー業界での活発な設備投資を背景に好調な受注状況が続いており、前回見通しに比べて増益が見込まれます。一方、電子材料・その他の事業では、液晶パネルの在庫調整などの影響を受けて、配線膜用ターゲット材の需要が減退していることなどから、業績は前回見通しを下回る見込みです。

これらの結果、当期の連結売上高は 1 兆 9,000 億円程度、経常利益は 1,700 億円程度、当期純利益は 1,000 億円程度と、それぞれ前回見通し並みとなる見込みであります。

#### 【連結業績見通し】

( 億円 )

	売 上 高	経常利益	当期純利益
今 回 見 通 し	19,000	1,700	1,000
前回見通し(昨年 10 月 31 日)	19,000	1,700	1,000
( 参考 ) 前 期 実 績	16,673	1,769	845

## ( 2 ) 単独業績見通し

当期の売上高は 1 兆 1,500 億円程度、経常利益は 1,100 億円程度、当期純利益は 700 億円程度と、いずれも前回見通し並みとなる見通しです。

【単独業績見通し】	( 億円 )		
	売上高	経常利益	当期純利益
今回見通し	11,500	1,100	700
前回見通し(昨年 10 月 31 日)	11,500	1,100	700
( 参考 ) 前 期 実 績	10,347	1,106	491

## 〔 期末配当について 〕

本日の取締役会において、1 株につき 4 円の期末配当 ( 年間 7 円 ) を実施する方針を決議いたしました。

以 上

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。